

「私的録音録画に関する実態調査」の結果を受けて

～私的録音編～

著作物等の適切な保護と利用・流通に関する小委員会委員

浅石 道夫

畑 陽一郎

椎名 和夫

実態調査の結果を受けて

(1)膨大な保存総体と録音回数

調査結果から、国民全体でみて、音楽データが大量に保存されている実態や、音源を音楽CDに限っても、直近1年間で膨大な数の録音を実施されており、非常に大きな私的録音ニーズの存在が明らかになった。

※本資料において録音とは、デジタル録音を指す。

(2)私的録音に供される機器の販売状況と補償金の現状

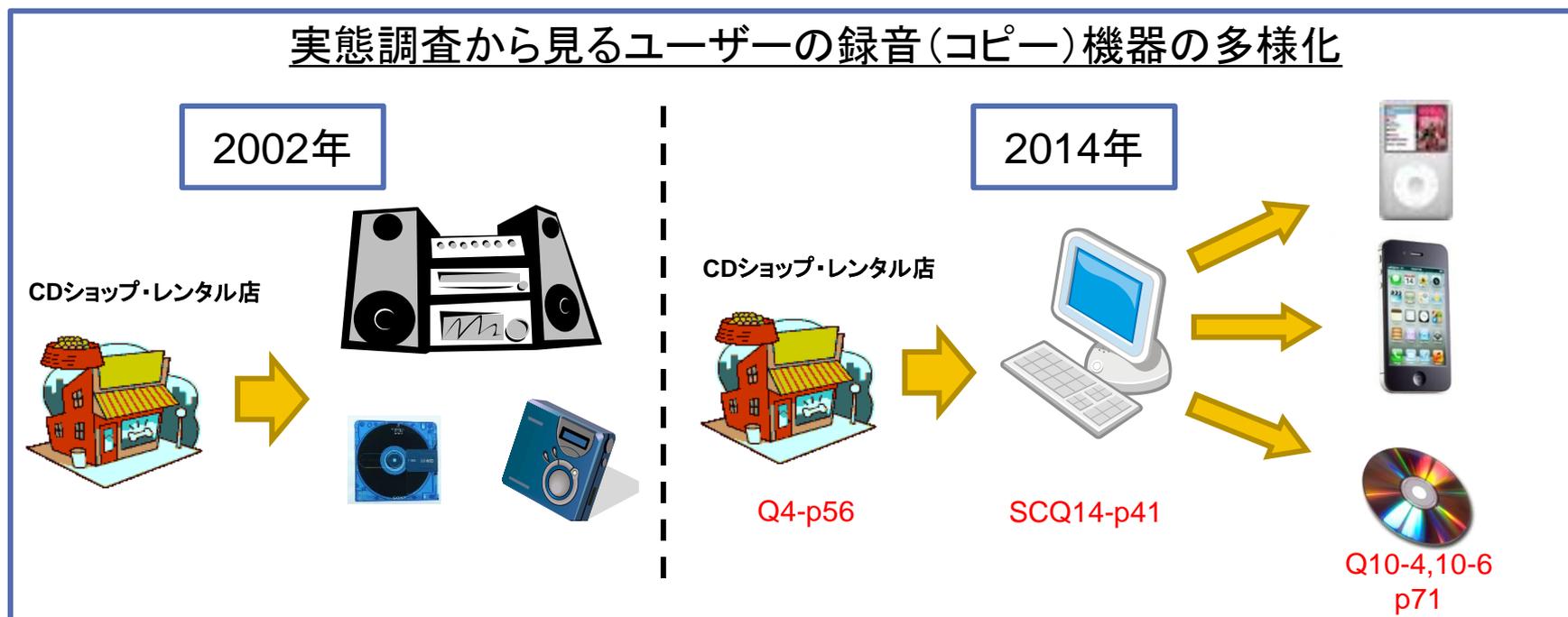
こうした非常に大きな私的録音ニーズを背景に、メーカーは私的録音に供される機器を大量に販売しているが、その大半が補償金の対象ではないため、私的録音補償金の受領額は激減している。

(1)膨大な保存総体と録音回数

I. 私的録音を取り巻く環境の変化 ～様々な機器でいつでも手軽に～

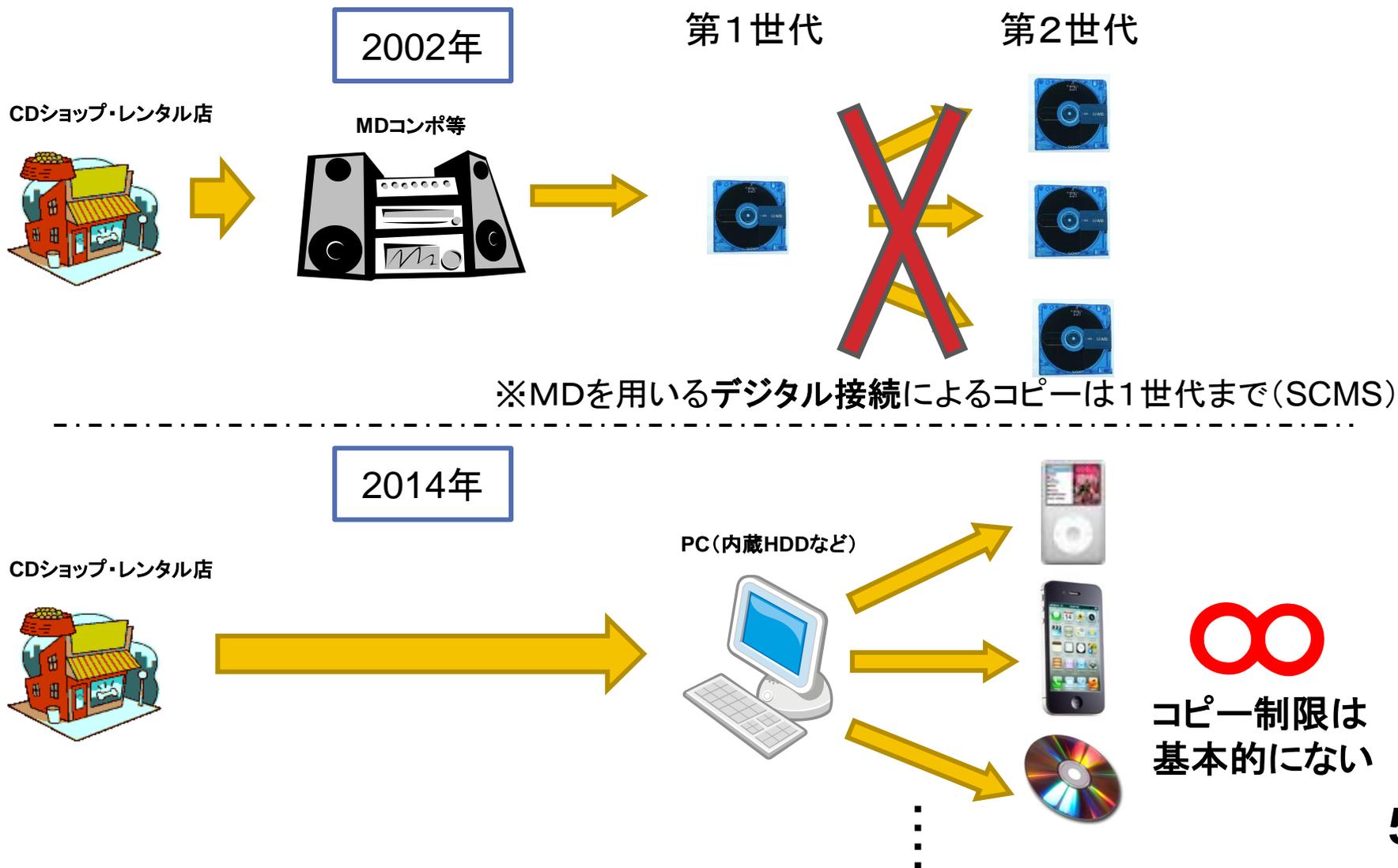
▶ 様々な機器媒体で保存される音楽データ (Q5、Q9 -p78)

音楽データの録音先をみると、平均録音曲数の多い順にパソコンに内蔵のHDD・SSD(39.4%)、ポータブルオーディオプレイヤーの内蔵メモリー(14.4%)、CD-R/CD-RW(11.9%)、スマートフォン内蔵メモリー(10.0%)、パソコンに外付けされているHDD・SSD(8.8%)、USBメモリーやSDメモリーカードなどのフラッシュメモリー(4.7%)、カーオーディオ・カーナビ内の内蔵HDD・SSD(3.8%)であり、ユーザーが自由な録音環境の下で多様な機器媒体に音楽データを録音していることが分かった(数字は全体に占める割合)。



II. パソコンの主流化に伴うコピー制限のない私的録音環境への移行

録音(コピー)機器の多様化に伴い、ユーザーの私的録音の自由度は増加した



Ⅲ.大量の音楽データ保存が可能な環境に

➤ 音楽データ保存量の増大(Q23 -p102)

音楽データ録音機器所有者に各々の機器における保存曲数を聞いた設問では、今回の調査で最も保有率・使用率の高かったパソコンに内蔵のHDD・SSDで平均 1,017.5曲、パソコンに外付けされているHDD・SSDでは平均 2,258.2曲、ポータブルオーディオプレイヤーの内蔵メモリでは平均 778.2曲、スマートフォン内蔵メモリでは平均 309.2曲だった。技術の進歩に伴い、ユーザーが大量の音楽データを保存できるようになったことが分かる。

参考：MDが主流であった2002年に、sarahが行った「私的録音に関する実態調査」では、MD保有者の平均保有枚数は25枚であり、1枚当たり12曲（容量60分を1曲5分）として試算すると、300曲相当を保有していたことになる。

⇒最も使用されている機器（パソコン）での保存量は3倍以上に

2002年(MD)
約300曲

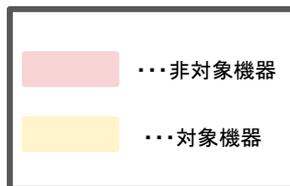


2014年(PC)
約1,017曲

IV.大量に保存されている音楽データ(Q23 -102P)

本調査102pの音楽データ保存量に関する設問から、今回の2次調査対象ユーザー3,003名の全体保存曲数を試算すると以下のとおりとなる。

	a.機器の保有者数	b.保有者の平均保存曲数	総保存曲数(a×b)
ポータブルオーディオプレイヤー内蔵メモリー	1,142	778.2	888,704.4
携帯PHS内蔵メモリー	195	96.6	18,837.0
スマートフォン内蔵メモリー	943	309.2	291,575.6
タブレット内蔵メモリー	182	334.5	60,879.0
PCに内蔵のHDD等	1,759	1,017.5	1,789,782.5
PCに外付けされているHDD等	382	2,258.2	862,632.4
自宅内のファイルサーバー等	54	2,398.7	129,529.8
フラッシュメモリー	394	296.9	116,978.6
カーオーディオ内のHDD等	259	396.4	102,667.6
オンラインストレージ等	40	1,168.3	46,732.0
CD-R/RW(データ用)	326	540.4	176,170.4
CD-R/RW(音楽用)	926	392.4	363,362.4
DVD-R/W等	119	839.7	99,924.3
MD	129	446.0	57,534.0
その他メディア	11	822.5	9,047.5
		総計	5,014,357.5
		1人当たりの平均保存曲数	1,670 曲



録音経験のあるユーザー(2次調査対象)の1人当たりの平均保存曲数は1,670曲

V.国民全体の音楽データ保存総数

今回の実態調査は、15-69歳を対象としており、年齢別の人口構成を踏まえた調査であるため、国民全体の音楽データ保存総数を試算することが可能である。すなわち、総務省統計局「平成26年6月報人口推計」を参考に、15-69歳の総人口を87,518,000人として、国民全体(15-69歳)の音楽データ保存総数を試算すると、

$$\begin{aligned} \text{保存総数} &= \overset{\text{※1}}{1,670 \text{ 曲}} \times \{ \overset{\text{※2}}{87,518,000 \text{ 人}} \times 39.9\% (\text{録音経験率}) \} \\ &= \overset{\text{※3}}{\underline{\text{約583億曲}}} \text{ が保存されていることになる。} \end{aligned}$$

※1 1,670曲 … 録音経験のあるユーザー(2次調査対象)の1人当たりの平均保存曲数

※2 39.9%という録音経験率は、PC等に既に保有している音楽データからの録音のみを行うユーザーを含んでいない(**SCQ13 -p38**)。

※3 有料音楽配信サイト等からの録音を含む。

VI.国民全体の1年間の音楽データ録音回数(Q5-P58)

本調査p58のデータより試算すると、録音経験のあるユーザー1人当たりの1年間の音楽CDからの平均録音曲数は、

$$\begin{array}{l} \text{※1} \\ \{ 59,469 \text{曲} \div 3,003 \text{人} \} \times 12 \text{か月} = \text{約}237 \text{曲} \text{である。} \end{array}$$

※1 本調査Q5-p58の1か月当たりの録音曲数のうち、音楽CDを音源とするものを集計

ここから国民全体(15-69歳)の1年間の音楽CDからの録音回数を試算すると、

1年間の音楽CD

$$\begin{array}{l} \text{からの録音回数} = 237 \text{曲} \times \{ 87,518,000 \text{人} \times 28.1\% \} \\ = \text{約}58 \text{億曲} \end{array}$$

が録音されていることになる。

※2 28.1% は、音楽CDからの録音経験者率(SCQ13-p38)

利益を享受する者は誰か？

●録音を行うユーザー

87,518,000人 × 39.9% = 34,919,682人のユーザー

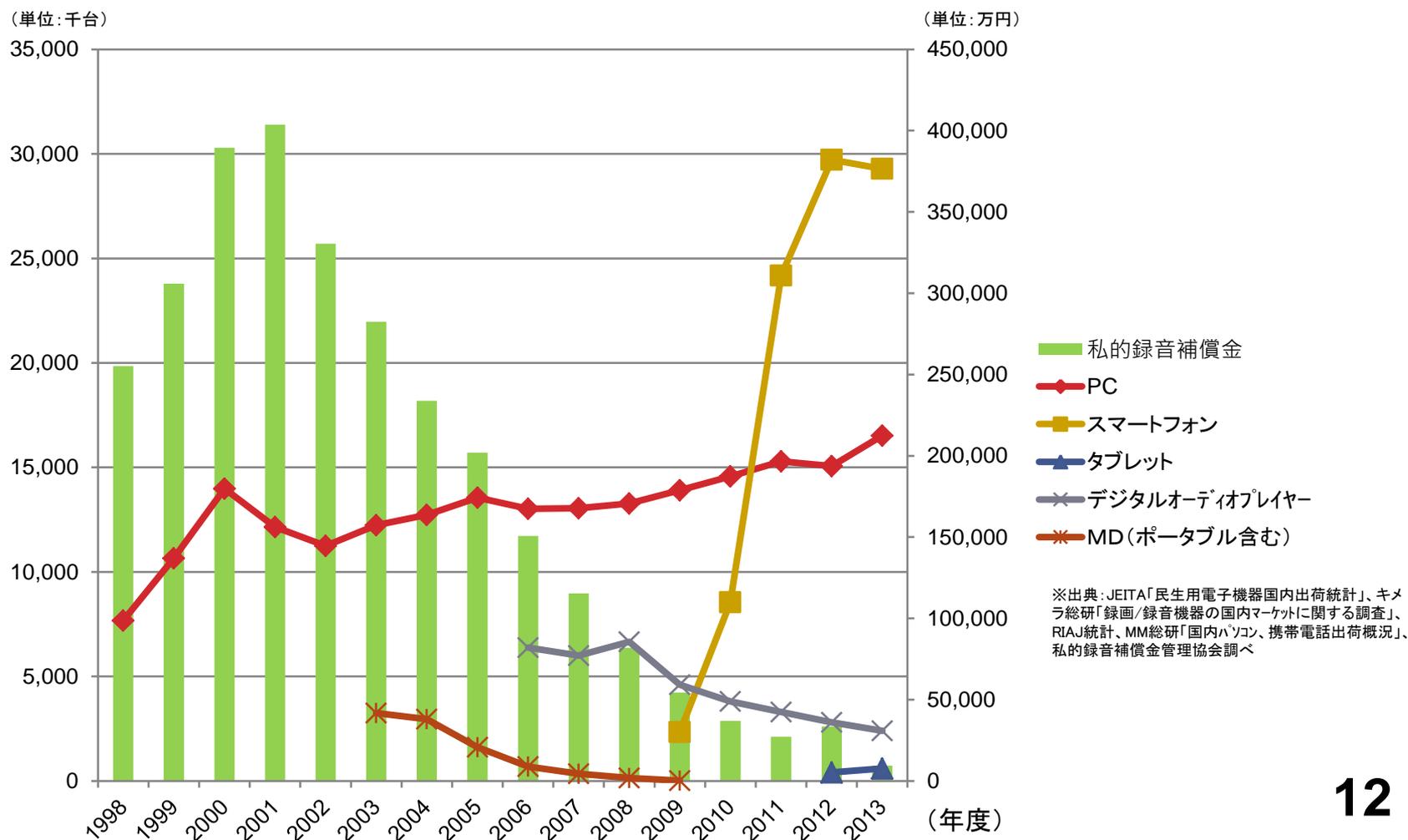
●複製機器・媒体を販売するメーカー等事業者

大きな私的録音ニーズに応える機器・媒体を販売して
利益を上げるメーカー等事業者。

(2) 私的録音に供される機器の 販売状況と補償金の現状

I. 機器の出荷台数と私的録音補償金受領額の推移

私的録音に供される機器の出荷台数、私的録音補償金の受領額の推移は以下のとおりで、私的録音に供される機器が大量に販売され続けている一方で、補償金の受領額が激減していることが分かる。



Ⅱ. 使用機器と対象機器の乖離(SCQ14 -P41)

今回の調査からは、既に確認されたように非常に大きな私的録音ニーズが存在することに加え、これらの私的録音に実際に使われる機器と補償金の対象となっている機器との大きな乖離も改めて確認された。

録音に使用される主な機器の使用率

機器の種類	使用率
PC(光学ドライブ付き)	67.1%
ポータブルオーディオプレイヤー(iPod)	18.5%
ポータブルオーディオプレイヤー(iOS機器以外)	14.8%
スマートフォン(iPhoneシリーズ)	17.3%
スマートフォン(iPhone以外)	16.7%
PC(光学ドライブなし)	10.6%
録音機能付きカーオーディオ・カーナビ	9.0%
録音機能付き据置型コンポ	7.9%
CD-R/RWレコーダー	4.5%

